

第 138 回沖縄県医師会医学会総会

広報委員 照屋 徹



第 138 回沖縄県医師会医学会総会日程

会 期：令和 7 年 6 月 8 日（日）
 会 場：沖縄県医師会館
 第 138 回沖縄県医師会医学会総会開会宣言
 第 138 回沖縄県医師会医学会総会会頭挨拶 宮良 長治

沖縄県医師会医学会賞（研修医部門）Ⅰ
 沖縄県医師会医学会賞（研修医部門）Ⅱ
 沖縄県医師会医学会賞（研修医部門）選考委員会
 一般講演（ポスター発表）

日本専門医機構認定共通講習【医療倫理：1 単位】
 「宗教上の理由による輸血拒否から考える患者・医療者
 関係」
 琉球大学医学部 医学教育企画室
 特命教授 金城 紀与史

よくわかるシリーズ
 「角膜移植とアイバンクの現状と課題」
 ハートライフ病院 眼科 愛知 高明

教育講演
 「心エコー図検査における AI 活用の現在と未来」
 琉球大学医学研究科 循環器・腎臓・神経内科学講座
 教授 楠瀬 賢也

特別講演（ランチョンセミナー）
 「DOHaD 学説で考える生活習慣病の予防
 ～沖縄県の健康長寿復活の鍵～」
 安次嶺 馨

日医認定産業医研修【基礎後期 2 単位・生涯更新 2 単位】
 「沖縄の健康問題・過去現在未来、開業医から伝えたい
 こと」
 今井内科医院 院長／中部地区医師会 会長 今井 千春

沖縄県医師会医学会賞（研修医部門）結果発表
 分科会長会議

2025 年 6 月 8 日（日）に行われた第 138 回
 沖縄県医師会医学会総会の報告をいたします。

砂川博司沖縄県医学会会長の開会宣言では、
 年々減少傾向にある医学会総会を危惧し、産業
 医研修会を併せて行う試みを本会で行ったと述
 べられました。

宮良長治医学会会頭挨拶では AI 技術の急速
 な進化により、医療現場も変革の時代を迎えて
 おり、眼底写真の診断や遠隔手術、iPS 細胞に
 よる再生医療など、これまでの常識を覆す未来
 が目前に迫っている。しかし、患者の表情や声
 のトーンから病状や性格を感じ取り、心を通わ
 せながら行う医療は、AI には代替できない人
 の施す医療の本質であり、医師の存在意義はそ
 こにあるということを述べられていました。生
 活習慣病や CKD 予防の重要性も改めて認識さ
 れ、予防医学への取り組みが強調されました。
 本会を通じ、今後も医療の原点を大切にしながら
 沖縄医療の向上・発展に努めたいと発言され
 ました。

日本専門医機構認定共通講習は琉球大学医学

部医学教育企画室の金城紀与史特命教授による「宗教上の理由による輸血拒否から考える患者・医療者関係」との講演で、日常の臨床で当たり前のよう取得している同意書について、インフォームド・コンセントの本質を改めて学ぶ機会となりました。単なる病状説明ではなく、患者の自律を尊重し、選択の自由を保障するプロセスであるという視点が非常に重要であり、患者の理解が得られないときこそ丁寧な対応が求められると感じました。信頼関係を前提としつつ、拒否や不同意の背景に寄り添う姿勢が、よりよい医療の提供につながると再認識しました。

よくわかるシリーズでは、「角膜移植とアイバンクの現状と課題」と題し、ハートライフ病院眼科の愛知高明先生より角膜移植の最新動向について学びました。従来の全層移植に加え、内皮移植や表層移植、さらには再生医療による治療法が登場し、低侵襲かつ選択的な視覚再建が可能となっていることは非常に心強く感じました。一方で、国内の献眼体制は依然として不十分であり、コロナ禍以降のドナー不足や海外依存の現状には課題も多く残されています。国内における献眼への理解と協力体制の構築が、今後の持続可能な移植医療に不可欠であると再認識しました。

教育講演は「心エコー図検査における AI 活用の現在と未来」と題する琉球大学循環器・腎臓・神経内科学講座楠瀬賢也教授の講演では、心エコーと AI 技術の融合により、診断の正確性と効率が飛躍的に向上していることが大変印象的でした。AI による断面分類や LVEF 自動測定は専門医と同等の精度を示し、読影のバラ

つきも減少するといった成果には驚かされました。さらに、壁運動異常や心筋症の検出にも活用され、非専門医でも精度の高い診断が可能になる未来に期待が膨らみます。医療過疎地への応用や予後予測の研究も進んでおり、AI の臨床的価値はデバイスの進化と併せて、ますます高まっていくと確信しました。

特別公演では安次嶺馨先生より「DOHaD 学説で考える生活習慣病の予防～沖縄県の健康長寿復活の鍵～」との演題で、DOHaD 学説により、生活習慣病の発症は胎児期や乳幼児期の環境に深く関係することを学び、非常に考えさせられました。沖縄の戦中・戦後の食糧難や食生活の変化が、次世代に影響を与えているという指摘は説得力があり、長寿県から転落した現状に納得がいくしました。「童（わらび）どう宝」という視点から、妊婦や子どもを対象とした予防活動の重要性を認識し、未来の健康づくりに官民一体となり取り組む必要があることを考えさせられました。

私は帰沖して 16 年経つにも関わらず、本会には初参加でした。会場を移動する際に耳に入った若い先生たち同士の会話に微笑ましくも懐かしい気持ちが湧き上がりました。若手医師 A「（発表） どうだった？」に対して若手医師 B「緊張したけれど何とか出来た」というやりとりを耳にしました。私が 33 年前にとある地方学会でネーベンテーマを発表したことを思い出させてくれましたが、研修医の研鑽の場としても、意義のある学会だと実感した次第です。次回の医学会総会に多くの会員の参加を期待したいと思います。



医学会頭挨拶（抄録）

第 138 回沖縄県医師会医学会総会会頭
宮良 長治



この度第 138 回沖縄県医師会医学会総会の開催にあたりご挨拶を申し上げます。このような名誉ある機会を与えていただいた田名毅沖縄県医師会会長、砂川博司医学会会長に深く感謝申し上げます。

近年の科学の発展は目覚ましく、AI の台頭により私たちの人生が大きく変わりつつあります。ボーカロイドによる歌謡界の席卷、AI が描いた絵が絵画コンテストで優勝する、囲碁、将棋、チェスなどの世界にも AI が進出しトップの座をうかがう、ChatGPT で医学論文作成も容易となり、私も外来診療でスマホの翻訳機能を活用して外国人の患者さんに対応していますが、近い将来、あらゆる言語に対応でき使用者本人の声で対応する外国語をしゃべってくれる翻訳機能を持った、補聴器型の翻訳機が普及すれば外国語を学ぶ必要もない、数多くの職業が AI に取って代わられるであろう未来など枚挙にいとまがありません。

身近なところではこの私も AI の脅威を感じています。私は眼科医で健診の際に撮影された眼底写真の判定を週に数十件行っていますが、AI は眼底所見のみでその男女を 80 ～ 90% の確率で当てることができるということです。私も毎回名前、性別を伏せて挑戦していますが、もう数年やっているにもかかわらず、正解率は偶然の一致程度つまり 50% あたりをうろうろという体たらくであり、完全に AI に後れを取っています。人間が一生かけても経験できないほどのデータを蓄積しそれを人工知能が恐らく一瞬で分析するのですから人間が勝てるはずがありません。そのうち眼底の判定を行う眼科医は必要なくなるかもしれません。世界中の名医が束になって考え抜いても分からなかった難病を AI

だけが正しく診断したという話もあります。そうすると目の前の患者さんの症状、所見を入力すれば AI が正しい診断を下し、投薬量、期間などの治療計画までアドバイスしてくれるのが当たり前となることでしょう。また、泌尿器科では標準的な手術となったダヴィンチによる遠隔操作による手術はオンラインでつなげばアメリカの専門医が日本の病院で手術することも可能で、これはそのうちあらゆる外科手術が遠隔操作で可能になる未来を示しています。1mm 未満の微妙な操作が求められる眼科手術も可能になるかもしれませんが、局所麻酔下での患者さんの予期せぬ動きなどには今のところ人間しか対応できないのではないかと思います。

現在開催中の大阪・関西万博で、拍動する心筋シートが展示されて大きな話題となりましたが、iPS 細胞を使った移植医療の未来には非常に大きな期待が寄せられています。そのうち患者さん本人の iPS 細胞から腎臓、心臓、肝臓などの臓器そのものを作り出し移植することができるようになるかもしれません。血液が作られれば献血の必要もなくなるかもしれません。眼科領域では角膜どころか眼球そのものが作成できれば数多くの難病の治療が可能となるでしょう。そうすると移植医療の大きなパラダイムシフトが起こることは間違いありません。

このような未来が予想される現代にあって、我々医師の存在意義はどこにあるのかをもう一度考える必要があると感じます。人間にしかできない医療とはどのようなものか。我々医師は患者さんを目の前にしたときまず何を考えるでしょうか。その人の体格、歩き方、しゃべり方、表情などから、どのような人物、状況であるかおおよその予想を立てて対応しようと考えてるで

しょう。呼び出されて返答した時の声のトーンでさえ性格などが如実に表れていることもしばしばで、キツそうな性格であろうと判断したら少し身構えて対応しようとするでしょう。逆に穏やかな性格の方と思われればこちらも穏やかに対応できそうで気分的に楽です。このような微妙な感情は人間にしか持つことはできないであろうし、それが治療計画に大きく影響を与えていると思います。眼科手術は局所麻酔でおこなわれることが多いので患者さんの性格の把握は非常に重要です。ひどく緊張するタイプの方の白内障手術の難しさは想像以上で、強く瞬目（まばたき）したり、力んだり、眼が動き続けたり、なぜか麻酔が効きづらくて痛がったり、ということになるとストレスフルな手術となり手術成績をも左右しかねません。このような時に医師、看護師が声掛けをしたり、場合によっては家族に手を握ってもらって対応したりすることもあり、このような対応は人間にしかできません。そして、そのような手術を成功させたときの満足感はまた格別なものがあります。人間対人間の心の通った医療は診療科を問わず永遠にとってかわられることがない医療人の使命であり誇りです。

しかし、疾患の治療は医師の使命ではありませんが、そもそも病気にかからないことこそが最も重要であり、高血圧、糖尿病などの生活習慣病やCKDなどの予防が実は最も根本的な医療ではないかとさえ思えるのです。しかし、予防医学に対する診療報酬などは到底満足のものではなく、見直されるべきでしょう。以前は長寿を誇った沖縄県ですが、今や特に男性の平均寿命は下から数えた方が早いところまで落ち込んでおり、対策も後手に回っている状況です。予防医学の重要性はますます認識されてくることでしょう。

我々沖縄県医師会会員は、常に目の前の患者さん、疾患に向き合いながら、研究を重ね、論文を発表し、よりよい未来に向けて活動を行っています。この地道な活動の積み重ねこそが現代の医療を発展させてきた原点であり、ヒポクラテスの時代から何ら変わることはありません。これからも私たちは医療の原点に立ち返り、本会が果たす大きな役割に期待しながら会員としての責務を果たし、沖縄県の輝かしい未来に向けて歩を進めていけることを祈念いたしましてご挨拶とさせていただきます。



日本専門医機構認定共通講習（抄録）

【医療倫理 1 単位】

「宗教上の理由による輸血拒否から考える 患者・医療者関係」



琉球大学医学部 医学教育企画室
特命教授 金城 紀与史

日常の臨床現場で取得することの多い同意書。侵襲的手技・手術や造影剤使用、輸血など様々な医療行為について同意書がとられる。多くの場合、患者の同意が得られるが、時として同意が得られない（拒否）ことや、一定の意思決定が得られないこと（先延ばしなど）もある。

医療者としては、「日常ルーチンとして行っていることを提示しているのに」、「これが医学的にベストなのに」との思いがあり、同意が得られないと対応困難と感じてしまうこともあるだろう。ややもすれば患者の理解力のせいにしてしまうなど、様々な陰性感情を抱いてしまうリスクもある。

本講習では、インフォームド・コンセントの基本的な考え方を押さえることを目標にする。インフォームド・コンセントとは病状説明のことではなく、医学的情報を患者に理解できるように説明した上で選択肢を提示し、医療者がベストと思われるもの、代替案も示す、その上で患者が自由意志に基づいて「自分の体・人生のことは自分で決める」という自律の原則に基づいて方針を選択するプロセスである。

自律した権利行使をするために意思決定能力があるかどうかについても評価が必要である。

P R O F I L E

（学歴）

1994 年 3 月 東京大学医学部医学科卒業
2006 年 6 月 Albany Medical College and Graduate College of Union University 修士（生命倫理）

（職歴）

1994 年 5 月～1997 年 5 月
亀田総合病院研修医
1997 年 6 月～2000 年 6 月
Thomas Jefferson 大学病院 内科レジデント
2000 年 7 月～2003 年 6 月
Mount Sinai 医科大学
呼吸器・集中治療フェロー
2004 年 1 月～2008 年 3 月
手稲溪仁会病院 臨床研修部、総合内科
2008 年 4 月
～2023 年 4 月
沖縄県立中部病院 総合内科
2017 年 4 月
～2025 年 3 月
厚生労働省医師国家試験委員会
2023 年 5 月 現職

（資格）

米国内科専門医、呼吸器内科専門医、集中治療学専門医
日本プライマリケア連合学会認定医、指導医
日本内科学会認定医、総合内科専門医

もし意思決定能力のない患者であれば、医療者は患者が「賢明でない選択」をしないよう支援しなければならない。

患者の自律した権利が認められたのは 20 世紀後半になってからであり、医学というサイエンスの進歩、女性やマイノリティ権利拡大の社会運動などが背景にあった。その結果、インフォームド・コンセントは医学的知識や経験に乏しい患者が自律的な意思決定を行うために必須のステップとなったのである。

本来は手術や侵襲的検査といった「同意書」のある医療行為だけでなく、あらゆるものに同意・不同意があるはずだが、日常では意識されことなく患者・医療者の信頼関係によって多くの医療行為が行われている。時として患者か

ら「不同意」「拒否」という声があがった時には患者の言動の背景や理由を探り、場合によっては説得したり、自分以外の医療者や管理者・倫理委員会の助けも借りるなど、医療者・患者双方が敵対することなくコミュニケーションを取り続けることが理想である。

最後に、医療者は自分の信条に反してでも患者に医療を提供すべきかどうかについて考察する。ただし、大多数の医療者が「一定の医療行為」について信条を基に提供拒否をした場合には、地域全体で特定の患者が医療を受けられなくなるリスクもあり、多様性・公平性・包括性（DEI）が求められる現代においては問題となりうる。

よくわかるシリーズ（抄録）

「角膜移植とアイバンクの現状と課題」



ハートライフ病院 眼科
愛知 高明

PROFILE

（学歴）

平成 29 年 3 月 琉球大学医学部医学科 卒業

（職歴）

平成 29 年 4 月 浦添総合病院 入職

平成 31 年 4 月 琉球大学病院 眼科 入職

令和 5 年 4 月 京都府立医科大学附属病院

令和 6 年 4 月 ハートライフ病院

（資格）

平成 29 年 4 月 医師免許

令和 5 年 6 月 眼科専門医

角膜移植は、角膜混濁や変性、内皮機能不全などにより高度な視力障害をきたした症例に対して行われる視覚再建医療である。患者の視機能の質（Quality of Vision：QOV）を回復させ、社会復帰に直結する治療法として、眼科医療において重要な位置を占めている。

近年、術式の進歩により、従来の全層角膜移植に加え、角膜内皮移植や表層移植に代表される角膜パーツ移植が、疾患の病態に応じた選択的かつ低侵襲な治療法として普及している。さらに、新たな治療選択肢として、ドナー由来の培養ヒト角膜内皮細胞を用いた再生医療が 2023 年に厚生労働省より製造販売承認を取得しており、今後、臨床現場での普及が期待されている。

このように治療の選択肢が広がる一方で、すべての角膜移植においてドナー角膜の提供が不可欠であり、眼球提供者（献眼者）の存在なしには成り立たない。日本国内では、この移植医療を支える体制として、各地域にアイバンクが設置されており、献眼意思の確認から角膜の摘出・保存・評価・移送までを包括的に担っている。

しかしながら、日本では長年にわたり慢性的なドナー不足が続いており、移植を希望する患者数との間には大きな乖離がある。さらに、2020 年以降は新型コロナウイルス感染症の影響により提供件数が激減し、その後も十分な水準への回復には至っていないのが現状である。

こうした背景を受け、主に米国をはじめとした海外からの角膜輸入が行われており、国内の

不足を一定程度補っている。国際的基準を満たしたドナー角膜が輸送されているが、本来国内の献眼体制によって支えられるべき移植医療が、海外ドナーに依存している現状は、倫理的・制度的な持続可能性の観点からも課題が残る。

本講演では、角膜移植の適応疾患と術式、アイバンク体制の現状と課題、海外ドナーの活用状況、そして今後の角膜移植の展望について概説し、視覚再建医療を支える社会的基盤とその臨床的意義をお伝えしたい。

教育講演（抄録）

「心エコー図検査における AI 活用の現在と未来」



琉球大学医学研究科 循環器・腎臓・神経内科学講座
教授 楠瀬 賢也

心エコー図検査は循環器診療における不可欠な診断ツールであり、近年は人工知能（AI）技術の導入が進んでいる。

AI は心エコー画像の最適化、セグメンテーション、自動測定に寄与している。我々の研究では、17,000 枚の心エコー画像を用いた AI モデルが 98.1% の精度で適切な断面を分類できることを示した。また、AI による左室駆出率（LVEF）の自動推定は、読影者間のばらつきを減少させ、専門家と同等の診断精度を示すことが確認された。

さらに、AI は疾患の検出・分類にも活用されている。例えば、肥大型心筋症やアミロイドーシスの識別において、高い診断精度が報告されている。虚血性心疾患領域でもその有効性は示されており、我々の研究では壁運動異常の自動

P R O F I L E

（略歴）

2004 年 3 月 筑波大学医学専門学群 卒
2009 年 9 月 徳島大学大学院 医科学教育部 卒
2010 年 9 月 徳島大学 循環器内科 助教
2011-2014 年 Cleveland Clinic, Cleveland, Ohio, USA, Research Fellow.
2020 年 4 月 徳島大学 循環器内科 講師
2023 年 7 月 琉球大学医学研究科
循環器・腎臓・神経内科学講座 教授
2023 年 11 月 琉球大学 超音波センター センター長
2025 年 4 月 琉球大学病院 病院長補佐

（受賞歴）

2020 年 福田記念医療技術振興財団論文賞
日本心臓財団・日本循環器学会 矢崎義雄奨励賞
第 9 回日本循環器学会循環器臨床研究奨励賞（研究部門）最優秀賞
2021 年 第 3 回日本メディカル AI 学会奨励賞
－ JMAI AWARD 優秀演題賞
2022 年 -2025 年 Top 10 Reviewers in Circulation: Cardiovascular Imaging

検出 AI が熟練医と同等の精度を示し、研修医よりも優れた結果を達成した。

AI はワークフローの効率化にも貢献している。AI 解析ソフトウェアを導入することで、測定時間やレポート作成時間が大幅に短縮され、医師の負担軽減につながることが示されている。

また、医療過疎地域では専門医不足が深刻な課題であるが、AI を活用した遠隔心エコーが解決策となりえるだろう。AI は画像のリアルタイム解析を支援し、遠隔地にいる患者でも高品質

な診断を受けることが可能となる。また、AI によるガイド付き撮影システムの導入により、非専門医でも適切な画像取得が可能となり、診断の精度向上にも寄与することが予想される。

さらに AI は診断支援だけでなく、予後予測にも応用されている。我々の研究では、経カテーテル大動脈弁置換術後の患者 1,365 例を対象に AI を用いた教師なし学習を実施し、予後に関連

する三つのクラスターを同定した。これにより、新たな病態分類が可能となることが示唆されており、これは AI の幅広い臨床応用の可能性を示しているといえる。

今後、AI のさらなる発展と普及により、心エコー診療の在り方が大きく変わることが期待される。本講演では、AI と心エコーの最前線を紹介し、今後の可能性について提示する。

特別講演（抄録）

「DOHaD 学説で考える生活習慣病の予防 ～沖縄県の健康長寿復活の鍵～」



安次嶺 馨

1 Barker 仮説から DOHaD 学説へ

David JP Barker (1938-2013、英国の疫学者・内科医) は、1986 年に Barker 仮説あるいは成人病胎児期起源説 (Fetal Origins of Adult Disease) と呼ばれる最初の論文を発表した (Lancet 1986;1:1077-1081)。子宮内の栄養失調、低酸素などの侵襲は、胎児の発育不全 (低体重児) をきたし、これが将来の生活習慣病の危険因子となることを報告した。

一方、DOHaD 学説 (Developmental Origins of Health and Disease) は、Peter Gluckman と Mark Hanson らが、Barker 仮説を胎児期から乳幼児期までの侵襲へと発展させたものである (Science 2004;305:1733- 1736)。DOHaD を読み

解く核心としてエピジェネティクス (Epigenetics) が注目されている。これは、ゲノムの DNA 配列を変えることなく、遺伝情報の発現を制御する分子機構である。DNA のメチル化、ヒストン修飾は、遺伝子のスイッチを ON にして、その作用を発現させる。

近年、エピゲノムに刻まれた過去は修正できることが分かってきた。すなわちメチル化されたエピゲノムは、食事・環境などを変えることによって、リプログラミングされる。生活習慣病のリスク因子を持った子どもたちに早期の予防対策をとることで、成人後の生活習慣病の発症を予防することが可能となる。

2 戦争と飢餓

DOHaD 学説は、戦争や大飢饉に遭遇した集団の研究で確認された。第 2 次大戦でナチスドイツに包囲されたオランダの飢餓 (1944-1945) はよく知られている。飢餓妊婦 (摂取カロリー 1000 以下) から生れた児は成人後、肥満・糖尿病・高血圧・心疾患に罹患する率が高いことが明らかにされた。これは一種の人体飢餓実験と考えられる。

3 太平洋戦争と沖縄

太平洋戦争中から米軍統治下に置かれた戦後

にかけて、深刻な食糧難に陥った沖縄県民が、生活習慣病の危険因子を持って生まれたことは想像に難くない。さらに戦後、アメリカ世からヤマト世へと移る過程において、沖縄の食生活は激変した。すなわち、戦前の低カロリー、低脂肪、低塩食から戦後の高カロリー、高脂肪、高塩食へと変遷した。戦後世代の県民にエビジェネティックな変異が起こり、「生活習慣病体質」に変化したと考えられる。

4 WHO 世界長寿地域宣言と長寿県の崩壊

1995 年、沖縄県は WHO の中嶋宏事務総長の支援を得て、「世界長寿地域宣言」を行なった。この時の会議記録を見ると、日野原重明氏は、以下のように述べている。「沖縄社会の現状は平均寿命日本一です。しかし、沖縄県の長寿は、若い人々ではなく、戦前の人々の功績であります。今の若い人々が育ってくると、沖縄の長寿はなくなっていると警告できます」

5 胎児・赤ちゃんから始める生活習慣病の予防

Barker の論文を学んだ演者は、DOHaD 学説を一般の人々に分かりやすく説明するために、「生活習慣病ツリーと長寿ツリー」の図を作成した。生活習慣病の危険因子は、胎児期や乳幼児期から芽を出していることを示した図を供覧する（安次嶺馨：DOHaD 学説で学ぶ 胎児赤ちゃんから始める生活習慣病の予防．幻冬舎 2023）。

6 「命（ぬち）どう宝」から「童（わらび）どう宝」へ

「命（ぬち）どう宝」とは、戦争で理不尽に奪われた命を悼む言葉として、沖縄では広く人口に膾炙している。しかし、生活習慣病という予防可能な病気によって死亡率全国一となった沖縄県民は今、最もこの言葉に反する生活を送っている。戦争による死と生活習慣病による早世は異なるように見えて、命を尊ぶと言う視点では同じである。さて、崩壊した長寿県はどのように再生するのか。演者は、令和の沖縄こそ、新たな健康世代を育てる時だと考える。すなわち、「胎児・赤ちゃんから始める生活習慣病の予防」活動によって、「令和健康世代」を作り上げる。従来の予防活動では欠落していた

妊婦と胎児、子どもからの食生活改善を全県規模で行う。また、近年、母親だけでなく、父親のリスク因子（肥満・糖尿病など）も次世代の健康に影響を与えることが明らかにされている（Paternal Origins of Health and Disease, POHaD）。子ども中心の病気予防活動を「童（わらび）どう宝」と演者は呼んでいるが、これを成功させれば、再び、日本一の健康長寿県沖縄は復活できる。

P R O F I L E

（略歴）

1967 年	鳥取大学 医学部 卒業
1969 ～ 71 年	沖縄県立中部病院 小児科 研修医
1971 ～ 74 年	シカゴ市マイケル・リース病院 小児科 レジデント
1976 年	米国小児科専門医
1987 年	ハワイ大学医学部 小児科 臨床教授
1999 年	琉球大学医学部 小児科 臨床教授
2003 ～ 04 年	沖縄県立中部病院 院長
2006 ～ 08 年	沖縄県立南部医療センター・ こども医療センター 院長
2011 ～ 2020 年	沖縄県立中部病院 ハワイ大学卒業後医学臨床研修事業団 ディレクター
2025 年	NPO 法人病氣予防先進地域 「WHO 宣言」を目指す県民運動 理事長

（所属学会・団体）

日本新生児成育学会（名誉会員）、日本周産期新生児学会（功労会員）、日本小児救急医学会（名誉会員）、日本 DOHaD 学会（顧問）、日本小児科学会、日本小児保健学会、特定非営利活動法人琉球交響楽団（理事）

（著書）

2005 年	日本から麻疹が無くなる日（編著） 日本小児医事出版社
2016 年	良医の水脈 沖縄県立中部病院の群像 ボーダーインク
2021 年	小児科レジデントマニュアル 第 4 版（編著） 医学書院
2023 年	DOHaD 学説で学ぶ胎児・赤ちゃんから始める生活 習慣病の予防 幻冬舎 その他多数



日医認定産業医研修

【基礎後期 2 単位・生涯更新 2 単位】

「沖縄の健康問題・過去現在未来、 開業医から伝えたいこと」



今井内科医院 院長・
中部地区医師会 会長
今井 千春

医学会総会に産業医研修会を組み入れて開催するのは初めての試みです。今回の研修会では教科書的な内容ではなく開業医ならではのリアルワールドなお話をしたいと思います。講演内容は沖縄の健康問題・過去現在未来と題しまして三部構成を予定しています。

第一部は沖縄の過去から現在に至る健康問題をテーマにしました。沖縄県男性の平均寿命全国順位が低下した主な原因は働き盛り男性の死亡率が高いことです。その死因には脳心血管疾患と肝疾患が多く、中でも肝疾患が占める割合は全国的にかなり高い水準です。

第二部では 2050 年問題に関連した将来の医療情勢を説明します。世界でも例をみない高齢者増加と、就業人口減少が問題となります。前期高齢者の方々に元気で長く働いてもらうことが解決の一つに挙げられ、高年齢労働者の安全と健康確保は重要です。加齢に伴う機能低下は一樣ではありません。昨年還暦を迎えた演者の経験も交えながら、産業医の皆様が高齢就業者の注意点をお話したいと思います。

第三部は就労困難となる大きな原因の一つである脳卒中予防についてです。高血圧管理が重要なのですが、働き盛りの男性高血圧患者さんはなかなか医療機関に来てくれません。いかに来院してもらうか、そのコツをお話したいと思います。降圧薬の特徴について、当院で採用している薬を中心に具体的に検討します。降圧薬を比較検討する場はなかなか無く、ぜひみなさんのご意見をお待ちしています。

プログラム最終で皆様お疲れとは思いますが、講演の合間に休憩時間を確保し負担が軽くなるように配慮しました。単位取得が必要でない産業医以外の先生方もぜひお気軽に参加ください。

P R O F I L E

(学歴)

平成元年 3 月 琉球大学医学部医学科 卒業
平成 8 年 3 月 琉球大学大学院 医学研究科 修了

(職歴)

平成元年 6 月 研修医
平成 3 年 4 月 豊見城中央病院 入職
平成 4 年 3 月 豊見城中央病院 退職
平成 8 年 7 月 琉球大学医学部 第三内科 助手
平成 9 年 10 月 大浜第一病院 入職 (循環器部長)
平成 11 年 8 月 カリフォルニア大学 サンディエゴ校 薬理学 研究員
平成 14 年 6 月 沖縄第一病院 入職
平成 15 年 4 月 沖縄第一病院 退職
平成 15 年 5 月 大浜第一病院 入職 (内科部長)
平成 21 年 6 月 大浜第一病院 退職
平成 21 年 7 月 ハートライフ病院 入職
平成 22 年 8 月 ハートライフ病院 退職
平成 22 年 9 月 今井内科医院 開院

一般講演 演題・演者一覧

< 口演部門 >

沖縄県医師会医学会賞（研修医部門）Ⅰ

- 1 けいれん重積から COVID-19 関連小児急性壊死性脳症の診断に至った一例
沖縄県立南部医療センター・こども医療センター
下地 真梨子
- 2 t(8;14) を伴う原発性出液リンパ腫類似リンパ腫の1例
中部徳洲会病院 循環器内科 田中 健一
- 3 好酸球増多が遷延し悪性リンパ腫との鑑別を要したカルバマゼピン関連薬剤性過敏症候群（DIHS）の1例
ハートライフ病院 循環器内科 竹田 和輝
- 4 慢性乳び尿症に進行性低ナトリウム血症を発症し、肺膿瘍・ARDS 合併により死亡した1例
大浜第一病院 中西 幸平
- 5 多病態の鑑別を要したメトホルミン関連乳酸アシドーシスの一例 — AG 開大型代謝性アシドーシスに出会った時の How To Act! —
南部徳洲会病院 総合診療科 ニエ リン
- 6 薬剤性甲状腺機能低下症に伴う便秘症状を契機に発症した門脈体循環短絡による肝性脳症の1例
沖縄県立中部病院 総合内科 玉城 裕大
- 7 気管支喘息発作と判断するも気管支拡張薬やステロイドの効果が乏しく鑑別を再検討した1例
沖縄県立南部医療センター・こども医療センター
研修センター 鈴木 敦貴

沖縄県医師会医学会賞（研修医部門）Ⅱ

- 8 吐血を主訴に来院した、胆嚢内出血の1例
浦添総合病院 齋藤 将吾
- 9 右胸腔内を占拠する孤立性繊維性腫瘍（Solitary fibrous tumor:SFT）摘出術の麻酔経験
中頭病院 黒田 尚希
- 10 Staphylococcus argenteus による頸椎化膿性脊椎炎、硬膜外膿瘍、化膿性血栓性静脈炎の1例
沖縄協同病院 平尾 孝成
- 11 腰部脊柱管狭窄症増悪との鑑別に苦慮した脊髄梗塞の1例
中頭病院 赤嶺 佐月
- 12 超音波検査で早期診断し得た上腸間膜動脈症候群の1例
浦添総合病院 高 子蕊
- 13 「救急車、本当に必要ですか？」～沖縄赤十字病院の搬送データから見る実態～
沖縄赤十字病院 医局 野原 海灯
- 14 詳細な病歴聴取で診断に至った若年女性の宿便性大腸穿孔の1例
沖縄県立中部病院 外科 蜂谷 奈津実

救急

- 15 沖縄県立病院 DPC データを用いた小児と成人における診療時間外受診の比較分析
沖縄県病院事業局 中矢代 真美
- 16 沖縄県本島北部から地上または屋上の場外離着陸場（病院ヘリポート）を経由した救急室までのヘリ搬送時間を比較した脳卒中の検討
沖縄県立北部病院 玉城 佑一郎



◇医学会賞（研修医部門）Ⅰ

最優秀賞：鈴木 敦貴（沖縄県立南部医療センター・こども医療センター）

「気管支喘息発作と判断するも気管支拡張薬やステロイドの効果が乏しく鑑別を再検討した1例」

優秀賞：下地 真梨子（沖縄県立南部医療センター・こども医療センター）

「けいれん重積から COVID-19 関連小児急性壊死性脳症の診断に至った1例」

◇医学会賞（研修医部門）Ⅱ

最優秀賞：赤嶺 佐月（中頭病院）

「腰部脊柱管狭窄症増悪との鑑別に苦慮した脊髄梗塞の1例」

優秀賞：蜂谷 奈津実（沖縄県立中部病院）

「詳細な病歴聴取で診断に至った若年女性の宿便性大腸穿孔の1例」

- 17 非典型的臨床所見を呈したギラン・バレー症候群の一例

南部徳洲会病院 上総 研一朗

- 18 頸部痛を主訴に来院した深頸部軟部組織感染症の1例

沖縄赤十字病院 研修医 鶴田 流星

- 19 顔面骨骨折の整復手術においてオトガイ下挿管で安全に気道管理が実施できた一例

浦添総合病院 北川 結惟

精神科

- 20 ウェアラブルデバイスをを用いた神経発達症児における睡眠リズムの検討

琉球大学病院 精神科神経科 石橋 孝勇

- 21 沖縄県における気分障害に対する反復経頭蓋磁気刺激療法 (rTMS 療法) の実施状況と自験例 42 例の解析

あかりクリニック 中村 明文

耳鼻咽喉科

- 22 当院における好酸球性副鼻腔炎の治療に関する検討

琉球大学病院 耳鼻咽喉・頭頸部外科 武田 翔吾

- 23 沖縄県の近年の成人人工内耳成績

琉球大学病院 耳鼻咽喉・頭頸部外科 比嘉 輝之

消化器 (外科)

- 24 当院における大腸癌に対するロボット支援下手術導入初期の短期成績

那覇市立病院 外科 知念 順樹

- 25 当院におけるロボット支援下手術導入と短期成績について

ハートライフ病院 外科 加藤 滋

- 26 当院で経験した Segmental arterial mediolysis による腹腔内出血の2症例

南部徳洲会病院 外科 高木 弘毅

- 27 鎖肛術後の慢性便秘症に伴う巨大直腸症に対する一治療例

琉球大学病院 臨床研修センター 蘇 航

- 28 十二指腸憩室穿孔に対して開腹にて穿孔部大網充填術、胃空腸吻合術、胆嚢摘出手術を施行した1例

ハートライフ病院 外科 大城 匡恭

一般外科 (英語セッション)

- 29 乳癌手術における仮想現実 VR (Virtual reality)・拡張現実 AR (Augmented reality) 複合現実 MR (Mixed reality) を応用したセンチネルリンパ節生検の確立と手術シミュレーションによる外科教育の効果向上

ハートライフ病院 乳腺外科センター 柏葉 匡寛

- 30 The correlation between body mass index and breast cancer risk or estrogen receptor status in Okinawan women

那覇西クリニック 玉城 研太郎

消化器 (内科)

- 31 院内に仕掛けた「罌」で断酒に関心のあるアルコール依存症患者を捕まえて効率よく指導する方法

沖縄リハビリテーションセンター 内科 犬尾 仁

- 32 特徴的な所見から糞線虫症を疑う契機となった十二指腸潰瘍の1例

南部徳洲会病院 総合診療科 岡崎 将斗

感染症

- 33 沖縄本島北部の病院勤務者におけるデルタ変異株期の COVID-19 ワクチン接種抗体力価に及ぼす毎日飲酒と 40 歳以上の年齢の影響: 後ろ向きコホート研究

北部地区医師会病院 検診科 岸本 拓治

- 34 速やかな介入により救命できた破傷風の1例

那覇市立病院 総合内科 湧川 朝雅

- 35 都道府県別の新型コロナワクチン接種率に関する多変量解析—沖縄県の接種率は何故、低かったのか—

那覇市医師会 会員 久田 友治

- 36 ニューモシスチス肺炎を契機に診断に至った成人 T 細胞白血病リンパ腫の1例

中頭病院 呼吸器内科 八木 暢大

- 37 口腔粘膜疹のみを呈する Stevens-Johnson 症候群を発症したマイコプラズマ感染の1例

沖縄赤十字病院 初期研修医 城間 伸幸

小児科

- 38 当院で経験した帽状腱膜下血腫についての臨床的検討

沖縄県立中部病院 小児科 佐本 奈々江

血液

- 39 ベーチェット病のような粘膜病変で来院した悪性リンパ腫の1例

那覇市立病院 内科 當山 磨貴子

- 40 びまん性大細胞型 B 細胞性リンパ腫に対する自家末梢血幹細胞移植 7 ヶ月後に COVID-19 関連肺炎を発症した一剖検例

中部徳洲会病院 三宅 司

呼吸器 (外科) I

- 41 93 歳超高齢者肺癌に対する胸腔鏡下左 S3 区域切除術の1例

中頭病院 呼吸器外科 玉城 駿

- 42 乳癌術後 Tissue Expander を有し肺癌ロボット支援下手術に際してポート配置の工夫を行った1例

中頭病院 呼吸器外科 新崎 麻央

- 43 右肺門部小細胞肺癌の治療後、同葉内の非小細胞肺癌を診断した1例

沖縄赤十字病院 呼吸器外科 矢野 貴之

- 44 食道穿通し縦隔内に迷入した魚骨を摘出した1例

琉球大学病院 第二外科 當山 昌大

- 45 沖縄病院における MET 遺伝子変異陽性非小細胞肺癌に対して1次治療でテポチニブを使用した後にカプマチニブを使用した1例

国立病院機構沖縄病院 呼吸器内科・

琉球大学病院 第一内科 兼久 梢

呼吸器 (外科) II

- 46 右胸腔内巨大線維性孤立性腫瘍の1切除例

中頭病院 呼吸器外科 嘉数 修

- 47 胸腺腫に合併した肺良性転移性平滑筋腫の1例

国立病院機構沖縄病院 外科 饒平名 知史

- 48 直腸癌からの転移性肺腫瘍を契機に3か所の多発肺癌が発見された1例

中頭病院 呼吸器外科 大田 守雄

- 49 腎癌からの転移性肺腫瘍が疑われた Sclerosing pneumocytoma の1例

中頭病院 呼吸器外科 徳永 真歩

婦人科

- 50 腹腔鏡下切除で診断した転移性卵巣腫瘍の1例
友愛医療センター 産婦人科 大城 大介
- 51 嚢胞開放後硬化療法が奏功した再発 Gartner 管嚢胞の1例
友愛医療センター 産婦人科 前濱 俊之

産科

- 52 流産絨毛染色体検査結果と次回妊娠における反復流産リスクについての検討
友愛医療センター 山田 真司

膠原病

- 53 好酸球性白血球と鑑別を要する EGPA の一例
中部徳洲会病院 総合診療科 白石 隆也
- 54 へき地に赴任する若手医師のためのリウマチ性疾患領域に関する Entrustable professional activities の開発
沖縄県立中部病院 内科 照屋 周造
- 55 自己免疫性溶血性貧血と骨髄繊維症を合併したシェーグレン症候群の一例
中部徳洲会病院 姚 太樹

皮膚科

- 56 免疫チェックポイント阻害薬使用中に免疫関連有害事象を併発し、経過中に Covid-19 感染後、重度の化膿性汗腺炎を発症した1例
沖縄赤十字病院 皮膚科 上原 絵里子
- 57 赤ら顔・酒さに対する治療戦略 第1報 各種治療方法の比較検討
貴クリニック 東盛 貴光
- 58 総合感冒薬のアリルイソプロピルアセチル尿素による固定薬疹の1例
沖縄赤十字病院 清水 桜

循環器 (外科)

- 59 術前 CT 評価が術式選択に有用であった大動脈二尖弁の1手術例
中部徳洲会病院 心臓血管外科 上杉 楓
- 60 当院の人工血管を用いた内シャント症例 (AVG) の検討
中頭病院 血管外科 安座間 陽輝

- 61 外科的ドレナージ術と局所陰圧閉鎖療法 (NPWT) で治療した腹部大動脈人工血管感染の1例
浦添総合病院 心臓血管外科 盛島 裕次

整形外科

- 62 当院における弯曲状寛骨臼骨切り術 (CPO) の術後中期成績
友愛医療センター 整形外科 永山 盛隆
- 63 同側上腕骨骨幹部遠位端同時骨折 (floating arm) の例1
大浜第一病院 小浜 博太
- 64 下腿骨骨折に伴うコンパートメント症候群の治療経験
浦添総合病院 初期研修医 佐橋 実佳

脳神経外科

- 65 当院における超急性期脳梗塞症例の検討：自院搬送例と紹介搬送例との比較
中部徳洲会病院 脳神経外科 上原 卓実
- 66 くも膜下出血急性期にみられた洞不全症候群
中部徳洲会病院 脳神経外科 佐和田 雄軌
- 67 初期治療で良好に経過した眼窩内悪性リンパ腫の1例
琉球大学病院 脳神経外科 丸山 哲昇

循環器内科

- 68 99mTc-MIBI シンチグラフィにて診断したアミオダロン誘発性甲状腺中毒症 1 型の1例
沖縄県立中部病院 総合内科 尾原 晴雄
- 69 人間ドックの精密検査をきっかけに発見された左房粘液腫の1例
沖縄赤十字病院 健康管理センター 田中 道子
- 70 当院における経皮的左心耳閉鎖術
浦添総合病院 循環器内科 千葉 卓
- 71 90 歳以上の心房細動患者に対するカテーテルアブレーションの成績についての検討
那覇市立病院 間仁田 守
- 72 ファロー四徴症術後の右室流出路機能不全症に対する当院での評価
浦添総合病院 初期研修医 大澤 杏奈
- 73 急性心筋梗塞に対する PCI 後、急速に心肺停止に至った心破裂の一部検例
中部徳洲会病院 循環器内科 坂本 有香

